

オックスファム・ハンガーバンケット 追加パック

Jake からの質問状

オックスファム・ハンガーバンケットは非常に強烈な体験をするアクティビティです。人間が問題意識をもつときは、ある出来事に対してその人の感情が大きく揺さぶられるときではないでしょうか。そうした経験は時間が経ったとしても忘れられない体験となります。

それゆえ、ハンガーバンケットでは、個々人が自分自身の生き方や生活を振り返り、内省する時間(振り返り)を非常に大切にしていますし、十分に振り返りができるよう環境づくりに細心の注意を払っています。

しかしながら、こうした感情の機能に着目し過ぎるがために、ハンガーバンケットの主催者が過度の演出を行ってしまう場合もあります。

また、ハンガーバンケットは実際に所得ごとのグループに分かれて、社会的な不公正を体験するアクティビティですが、体験活動のみに焦点が当てられ、体験することだけがその目的だと見なされてしまうこともあります。

このような場合、想定される懸念として、繊細な人々に対して大きな「罪悪感」のみを残してしまう場合もあります。 **人々に「罪悪感」を与えることがハンガーバンケットの目的なのでしょうか？**

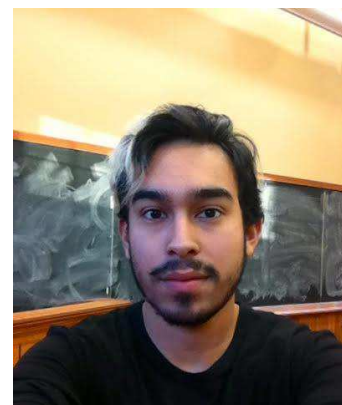
ハンガーバンケットを主催する場合、私たちはハンガーバンケットを適切に運営できるよう、ハンガーバンケットの目的についてしっかりと認識しなければなりません。

ツールキットでは、「ハンガーバンケットを通じて、ひとり一人が何をすることができるのかを考え、変化に向けた行動のきっかけ」をつくることを呼びかけています。

Jake からの質問状

上記の課題点を考える上で、アメリカで活動するオックスファムの学生メンバー、Jake Villarreal がハンガーバンケットに参加した際のコメントは非常に意味がある問いであったため、ご紹介します。

“ハンガーバンケットは、単なる自己満足で、こんなものは本当の貧困ではない”



(2014年チェンジ・リーダー)

まず、前提としてこの発言が行われた背景をご説明します。

ハンガーバンケットは、アメリカ、ボストンで行われた学生向けのリーダーシップ・プログラム、CHANGE Initiative 2014 の1週間開催されるトレーニングの4日目に行われました。

ハンガーバンケットでは、所得別に参加者が分かれた後、(おそらく過去にハンガーバンケットへの

参加経験者が多かったためか) 高所得層が低所得層に食べ物を分け与えはじめました。また、低所得層の中でも限られた食べ物を平等にわけるといった動きがありました。

そして、その後の振り返りにおいて、感情的な発言が多くなされ、中には、アメリカの大学で学んでいる途上国出身者(おそらく、その中でも高所得層であり潜在的に「罪悪感」を感じている人)やアメリカにおける低所得層出身者もあり、泣き出してしまう人もいました。こうした中で、彼からの発言がなされました。

“ハンガーバンケットは単なる自己満足で、こんなものは本当の貧困ではない。我々はこうした行為から脱却しなければならない。”

かなり強い調子での発言でした。

彼の指摘は、ハンガーバンケットの本質を再確認するうえで重要だと思います。

ハンガーバンケットは、オックスファムが開発したワークショップであり、そもそも貧困や飢餓をはじめとした問題を解決することに根ざしています。ハンガーバンケットの帰結としても「社会正義」に根ざし、問題解決を念頭に行われるべきだと考えています。

特に日本では、「社会正義」に対する概念が一般的に共有されてない状況を鑑みても、「罪悪感」や「富める者が貧しいものを救う」といったメッセージになりがちです。

こうした状況を回避するために、話し合いの際に有用となる設問を用意しました。

必要に応じて、ハンガーバンケットの際にご活用ください。

1. **ハンガーバンケットで感じた感情は、日常生活ではなぜ感じないのか？**
2. **ハンガーバンケットと日常生活の根本的な違いは何か？ 特に、あなたと他の所得層のグループにいる人々との関係性での違いはあるか？**
(ヒント: 見える化、低所得者層と高所得者層の一体感[知り合い、仲間]、共感性)
3. **ハンガーバンケットの体験から、世界の食料問題の解決のために、日常生活においてどのようなことを行えば、より多くの方が問題解決に向けて活動に参加するのでしょうか？ みなさんの周囲にいる人々にどのような働きかけをすべきでしょうか？**
(補足の質問: どのようにすれば低所得、特に、不公正な状況にある人に対して共感性を育むことができるのか？「知ること」が必要だとすれば、そういった情報であるべきか？ 人が他者に対して協力するときに必要なことは何か？)